

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年9月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0272100942
法人名	有限会社 ひかりの里
事業所名	グループホーム ひかりの里
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字風合瀬字大磯195-16 (電話)0173-76-3238
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算5.6人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 9,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

## (4)利用者の概要(平成21年5月現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	鱒ヶ沢町立中央病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、管理者が両親を介護した経験をもとに、「地域の中で、健やかで安心してその人らしく暮らせる生活の延長」をモットーに、利用者の権利と事業所の義務を契約書等にも明示し、利用者への福祉サービスの質の向上に取り組んでいる。

職員の資格取得に向けた支援など、職員の人材育成面にも積極的に取り組んでいるほか、近隣グループホームの管理者や職員と交流し、利用者へ提供するサービスと職員の質の向上に向けた取り組みを行っている。

また、随時のホーム見学、地元中学生の高齢者介護の体験学習、認知症介護実践研修生の受け入れのほか、老人会の生きがい活動として介護予防や健康管理、認知症の普及活動など積極的に取り組んでいる。

ホーム利用を希望する近隣住民は、気兼ねなく相談に来所しており、入居前より見学や体験利用を行うなど、職員は利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族等双方の意向に合うよう十分に話し合い、納得を得た上でサービス出来るよう調整している。

## 【特に改善が求められる点】

職員を経験年数や個々の能力に応じて、計画的・段階的に研修を受講できるように、年間研修計画を作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「身体拘束」ならびに「災害時の食料等の備蓄」に関して全職員で改善策を話し合い、より良い利用者へのサービス提供ができるよう取り組んでいる。また、評価結果を役場や運営推進会議に報告すると同時に、誰でも閲覧できるよう、ホーム窓口に設置している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価および外部評価の意義を理解し、自己評価を作成する際は、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>当該地域では農漁業と関わりが深く、冬季間を除いては運営推進会議への参加は難しい状況ではあるが、民生委員、家族代表の参加を得て、4か月毎に開催している。</p> <p>メンバーは運営推進会議の意義、役割を理解し、サービスの活性化、利用者の介護度進行に伴う関係機関との提携、ホームの行事運営などに具体的な提言をし、サービスの質の向上につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族が毎月来所した際や、年1回の家族会開催時に意見等を聞いているほか、ホーム内に苦情箱を設置し、要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。</p> <p>また、内外の苦情受付窓口を明示するほか、青森県運営適正化委員会からアドバイスを得て、出された意見等を職員に周知し、日々のケアサービス反映させていく体制が整っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民は、職員と顔見知りの方も多く、ホームの見学にも気軽に訪れるほか、自家栽培した野菜などを届けたり、運動会等の行事運営にも参加するなど、良好な関係が築かれている。</p> <p>また、地区の自治会に加入しているほか、中学生の高齢者介護体験学習、認知症介護実践研修生を受け入れ、老人会の生きがい活動では、介護予防や健康管理、認知症の普及活動など積極的に行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、利用者が地域社会の一員として過ごせるよう、「私たちは地域とのつながり、かかわりを大切に考え、家族に支えられながら、その人らしく健やかで、安心して暮らせる生活を支援します。」というホーム独自の理念を作成している。</p> <p>理念をパンフレットや広報、ホーム内に掲示し、管理者や職員は理念をミーティング等で唱和し、行政、運営推進会議、地域の「生きがい活動」や住民との交流を通じて理念を実践したコミュニティーサポートを目指している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>ホーム利用を希望する近隣住民は、気兼ねなく相談に来所しており、入居前に見学や体験利用を行うなど、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族等双方の意向に合うよう十分に話し合い、納得を得た上でサービス出来るよう調整している。</p> <p>職員はアセスメントシートや日常会話の中から、利用者の思いや要望の理解に努め、利用者の経験を活かした草取り等の共同作業を取り入れ、利用者や職員と一緒に生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画は、利用者並びに家族の意向を聞き、毎月の定例会議で全職員で話し合い、介護計画作成者と担当職員が調整を行いながら作成している。必要に応じて家族等からも情報収集を行い、利用者本位の個別具体的なものとなっている。</p> <p>また、重度化や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしており、利用者や家族等、医療機関と早期からの話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>ホームでは利用者一人ひとりを尊重し、個々のペースに合わせて、その人らしい生活が送れるよう支援している。</p> <p>食事の献立は、地域包括支援センターの栄養士のアドバイスのもとに、利用者の生活習慣病予防にも配慮して提供されている。また、利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し、医療機関受診時にも報告している。</p> <p>広めの居室には、ブラインドが施され、ベッドやタンスが備え付けられている。また、利用者は馴染みの家具や調度品、位牌等を持ち込んでおり、個々の生活空間としての居室作りに努めている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、利用者が地域社会の一員として過ごせるよう、「私たちは地域とのつながり、かかわりを大切に考え、家族に支えられながら、その人らしく健やかで、安心して暮らせる生活を支援します。」というホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をパンフレットや広報、ホーム内に掲示し、管理者や職員は理念をミーティング等で唱和し、行政、運営推進会議、地域の「生きがい活動」や住民との交流を通じて、理念を実践したコミュニティーサポートを目指し取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民は、職員と顔見知りの方も多く、ホームの見学にも気軽に訪れるほか、自家栽培した野菜などを届けたり、運動会等の行事運営にも参加するなど、良好な関係が築かれている。また、地区の自治会に加入しているほか、中学生の高齢者介護体験学習、認知症介護実践研修生を受け入れている。老人会の生きがい活動では、介護予防や健康管理、認知症の普及活動など積極的に行っている。ホームに外部の方が訪れる際は、個人ファイル等を事務室に保管するなど、利用者のプライバシーには十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価および外部評価の意義を理解し、自己評価を作成する際は、全職員で取り組んでいる。また、評価結果について、役場や運営推進会議に報告すると同時に、ホーム窓口にも設置するほか、全職員で改善策を話し合い、より良い利用者へのサービス提供ができるよう取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・家族代表・利用者・管理者ならびに職員で構成され、4か月毎に開催されている。メンバーは運営推進会議の意義、役割を理解し、ホームサービスの活性化、利用者の介護度進行に伴う関係機関との提携、ホームの行事運営などへも具体的な提言をし、サービスの質の向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの呼びかけで、地区内の福祉サービス提供全事業所が1ヶ月に2回集り、地域の高齢者福祉並びに利用者へのサービスの質の向上に向けた情報交換を行っている。また、ホームではホーム便り等を地域包括支援センターや高齢者の生きがい活動、ゆとり温泉等にも配布し、ホームの活動状況の情報公開を行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修や内部研修により、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めている。また、利用者や家族、地域住民への事業普及活動を積極的に行っており、必要に応じて情報提供等の支援を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修に参加し、「自分がされて、嫌なことは虐待になり、ホームは虐待を絶対にしないケアを提供します」と指導しており、職員は勉強会等で理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。また、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めを作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際に、ホームの理念や方針等の入所に関する説明のほか、契約内容に変更があった場合の説明も行い、納得を得ている。また、利用者並びに家族が不安を抱かないよう、退居についても説明し、退居時には退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報ひかりの里を送付し、利用者の暮らしぶり等を報告しているほか、健康状態や受診状況、預り金の利用状況等を家族来所時や電話等にて随時報告している。また、預り金についても出納帳に記載し、領収書の綴りを添えて定期的に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が毎月来所した際や、年1回の家族会開催時に聞いているほか、ホーム内に苦情箱を設置し、要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、内外の苦情受付窓口を明示するほか、青森県運営適正化委員会からアドバイスを得て、出された意見等を職員に周知し、日々のケアサービス反映させていく体制が整っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームではここ数年職員の離職等に伴う担当職員の交代が無く、利用者の心身へ負担のない継続したサービスを提供している。また、担当職員の交代がある際は、利用者への十分な説明と詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関する相談等は、地域包括支援センターや外部の事業所より助言を得ている。また、職員の力量に合わせた研修会に随時参加させているほか、勉強会等を行い、介護福祉士資格取得等を支援している。受講後は報告書を作成し、報告会にて全職員に周知しているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員を経験年数や個々の能力に応じて、計画的・段階的に研修を受講できるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが1ヶ月に2回開催する、地域の福祉サービス提供全事業所が参加する情報交換会に参加し、利用者へ提供するサービスと職員の質の向上に向けた取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より見学や体験利用を行うなど、職員は利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族等双方の意向に合うよう十分に話し合い、納得を得た上でサービス出来るよう調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はアセスメントシートや日常会話の中から、利用者の思いや要望の理解に努め、利用者の経験を活かした草取りや農作物の収穫、掃除、配膳、食器拭きなどを共同作業に取り入れ、利用者職員と一緒にホームでの生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族、職員、地域住民との相互理解や協力が得やすい環境にあり、利用者の思いを把握できるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者並びに家族の意向を聞き、毎月の定例会議で全職員で話し合い、介護計画作成者と担当職員が調整を行いながら作成している。必要に応じて家族等からも情報収集を行い、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施時期を明示し、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に見直しを行っている。また、身体状況変化等には随時見直しを行っている。更に、介護計画更新時には利用者や家族の希望等を取り入れ、同意を得た上でサービス提供を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの見学やデイサービススタイルでのホームの体験利用を行っているほか、家族が宿泊を希望する際には、利用者の居室を提供するなど、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の受療状況を把握しており、希望する医療機関の受診を支援している。また、受診の際に家族が付き添いできない場合は職員が対応しているほか、体調変化時等に相談できる協力医療機関を確保し、受診結果等を家族に報告することで、情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしており、利用者や家族等、医療機関と早期からの話し合いを行い、意思統一を図っている。また、退居後の生活面でも利用者や家族等に不安にならないよう、関係機関との情報交換に努め情報提供を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を急がせることなく自然体で接する声かけの励行に努めている。また、おむつ交換を必要とする利用者には排泄時の不安や羞恥心への対応として、他の利用者の目に触れないように個室で行うなど、尊厳にも配慮している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、利用者の個人情報等は事務室で適切に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは利用者の言動を急がすことなく、一人ひとりのその日のペースや希望、体調等に合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は地域包括支援センターの栄養士のアドバイスを参考に、利用者の好みや生活習慣病予防に配慮し、地元旬の山菜や野菜を食材と使用している。また、利用者の状態等に応じて、後片付け等を職員と一緒にしているほか、職員は利用者と一緒に会話を楽しみ、さり気なく食事のサポートを行いながら食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室にはすべり止めやL字型の手すりが設置され、安全面に配慮されており、週3回、個人浴主体で行っている。また、近くの温泉に出かけるなど、できるだけ利用者の意向に沿った支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員は、家族等から情報収集し、利用者の生活歴やスタイル、好みなどについて把握している。ホーム生活では、畑の草取り、収穫、調理、配膳、下膳、掃除、洗濯物たたみなど、職員との共同作業や利用者の楽しみなどを取り入れている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは閑静な場所にあることから、近隣を散歩したり、大戸瀬海岸等へドライブに出かけるなど、ホームに閉じこもらない生活支援を行っている。外出の際は、個々の身体状況に配慮し、その日の状態にあわせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという方針で、管理者や職員は、身体拘束をしないケアの実践に一体となって取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行う場合には、家族へ説明し同意を得て行うほか、その理由や方法、期間、経過観察等を記録に残す体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室などは施錠していない。また、玄関前が事務室となっており、玄関からの出入りを常に見守りを行っているほか、外出時には付き添っている。更に、無断外出時に備え、町会の自治会や近隣住民の協力を得られる体制となっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを整備し、地区の消防署と連携を取って消火器の取り扱いや発煙筒を使った昼夜を想定した避難訓練を定期的に行っている。また、災害発生時に備えて、保存食のほか、ポータブルトイレ、コンロ、ラジオ、懐中電灯などを用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は、地域包括支援センターの栄養士のアドバイスのもとに、利用者の生活習慣病予防にも配慮して提供されている。また、利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し、医療機関受診時にも報告している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関するマニュアルを整備し、利用者の体調観察、定期的な検便の実施、行政からの感染症に関する情報収集のほか、講習会にも参加し、感染症予防に対して管理者・職員一体となった取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの建物、玄関は周囲の木々の緑に融和し、落ち着いた家庭的な雰囲気です。近隣の人にとっても親しみのあるホームとなっている。ホーム内部は木肌と白地を基調とし、天窓からの柔らかい陽ざしのほか、ホールの大らかな窓からは日本海が望める。また、手作りの季節を感じられる壁飾りがある館内で、利用者はゆったりとした時間を過ごしている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日対策のブラインドが施され、基準より広めの居室には、ベッドやタンスが備え付けられている。また、利用者が慣れ親しんできた家具や調度品、テレビ、家族の写真、位牌も持ち込んでおり、一人ひとりの生活空間としての居室作りに配慮している。		

※    は、重点項目。